

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

## 伊勢地域公共交通会議 (伊勢市)

平成18年11月30日設置

令和2年3月25日 伊勢市地域公共交通網形成計画策定  
(計画期間：令和2年4月～令和7年3月)

令和5年6月20日 フィーダー系統 確保維持計画策定

評価対象の地域公共交通確保維持事業

- ・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金
- ・地域公共交通調査事業

# 1.【Plan】協議会等が目指す地域公共交通の姿

## 地域の特性と背景

- 人口：経年的に減少傾向、高齢化は着実に進展（R2時点高齢化率：32% H27時点高齢化率：29%）
- コミュニティバス：H19.4から運行開始、利用の約7割が65歳以上、目的は買物・通院が多い
- 市内環状バス：社会実験運行後、R2.4.1からおかげバス環状線として本格運行
- 路線バス：利用者数は市民が主に利用する一般路線で減少、年齢層は幅広く、観光利用が特に多いほか、通勤や通院、買い物など多様な利用目的
- H28.3「伊勢市地域公共交通網形成計画」策定、R2.3に改訂

## 総合計画・都市マス・立地適正化計画における公共交通（バス）の位置づけ

- 誰もが安心して移動できるための地域公共交通の充実
- 誰もが利用しやすい公共交通手段の充実
- 地域間交流の促進
- 生活基盤としての公共交通の確保
- 公共交通の利用促進により交流人口の増加
- 鉄道やバス、タクシーなど様々な公共交通の連携

## （改訂）伊勢市地域公共交通網形成計画

### ○計画期間

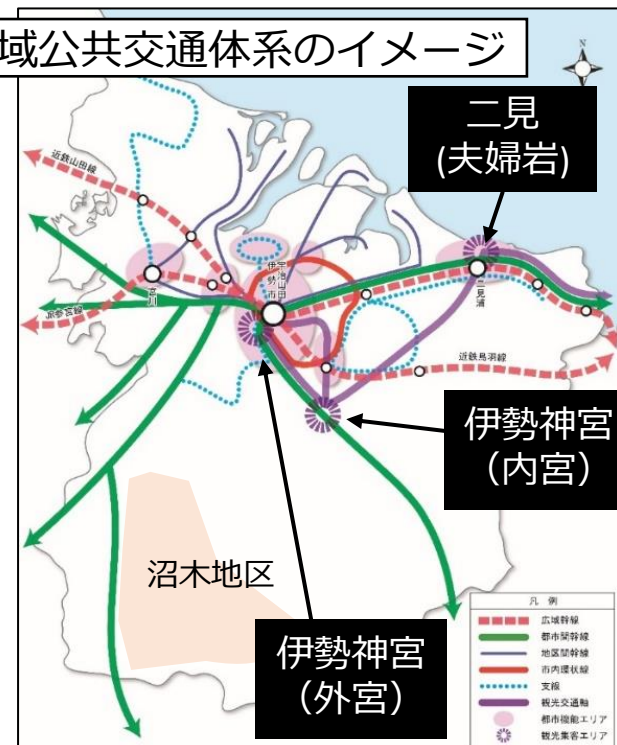
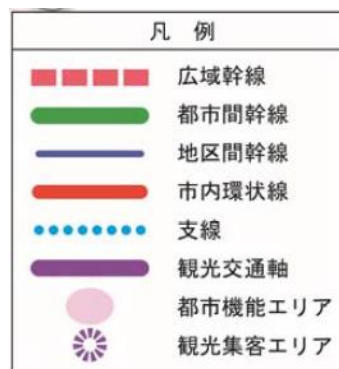
令和2年度～令和6年度

※現在、次期計画（案）を策定作業中  
（地域公共交通調査事業活用）

### ○基本方針

- ①日常生活で利用できる公共交通を目指す
- ②公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す
- ③地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える

## 伊勢市地域公共交通体系のイメージ



## 2.【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

### 主な取り組み内容

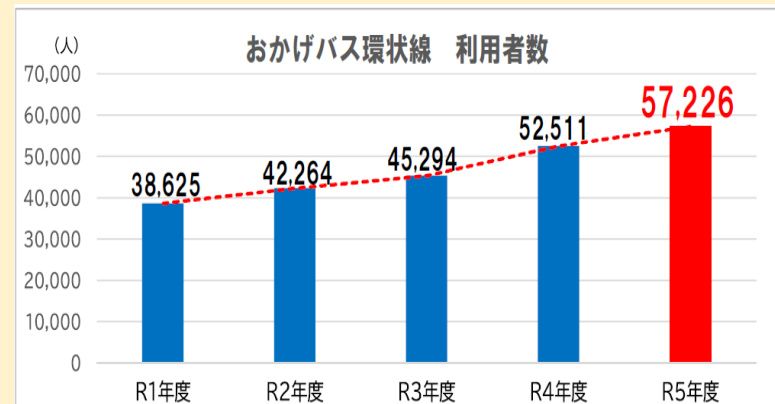
#### おかげバス環状線の運行



令和2年4月からの本格運行を開始後、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、令和6年度に至るまで**全体的な利用者が増加傾向**。★利用者数：42,264人（R2）→57,266人（R5年度）

その他のおかげバスや路線バス、鉄道および地域運営乗合タクシーとの**乗り継ぎ割引**を継続して実施。

- 運行時間：約90分/1周
- 運行距離：18.2km/1周
- 運行回数：右回り、左回り各9便
- バス停留所：31箇所
- 運賃：大人200円、高齢者100円



各年度4月～3月の利用者数

#### バスの乗り方&交通安全教室

バスに乗る機会が減少するなか、バスへの興味喚起や利用啓発のため、**市内の小学校6校**で実施。

※のべ228人の児童が参加、R5実績 5校



- ・バスの乗り方
- ・運賃について
- ・乗車マナー
- ・体験試乗
- ・交通安全講座

#### のりものふれあい広場・バスポスターコンクール

伊勢まつりにて「のりものふれあい広場」を出展。

**電気バスの展示・バス乗務員制服着用体験**や

**バスのクイズラリー**で利用啓発を実施。

また同会場にて、バスポスターの表彰式を実施。



## 2. 【Do】 目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

デジタルを活用した利用促進の新規取組として、おかげバスの1日乗車券に「デジタルチケット」を追加。「GTFSリアルタイム」の導入、「チャットボットによる公共交通案内」をスタートし、利用者の利便性の向上を図った。

### デジタルチケット導入

R6年8月～

おかげバス1日乗車券をデジタルチケットでも販売開始。

(8月～12月実績 9件)

[参考/紙券実績 1,012件]



### GTFSリアルタイムの導入

R6年10月～

GTFSリアルタイムを導入し、Google検索でも実際の運行状況を反映した経路検索が可能に。

R2～三重交通のバスロケーションシステム「Bus-Vision」もあわせて運用している。

### チャットボットによる「公共交通案内」

R6年7月～

伊勢市公式LINEアカウントのメニューに「公共交通案内」を追加。バスや鉄道の時刻表などをチャットボットにより案内。(7～11月 3,520回利用)

<利用方法>

①伊勢市 LINE 公式アカウントのメニューから、「公共交通案内」を選択



②調べたい項目を選ぶ

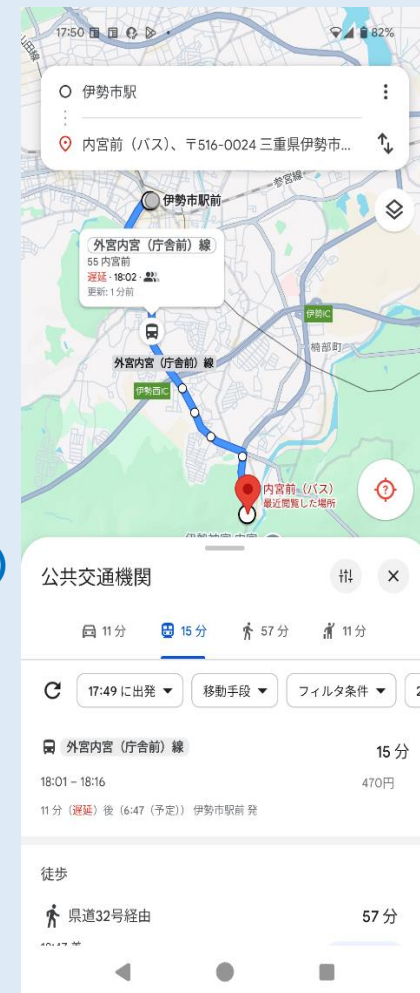


③画面の案内に従って進む

(例)公共交通時刻表  
⇒バス時刻表  
⇒おかげバス  
⇒環状線

「環状線」の時刻表はこちらから確認できます。  
[https://www.city.ise.mie.jp/res/projects/default\\_project/page/Q01/004/1993/r6\\_05-06.pdf](https://www.city.ise.mie.jp/res/projects/default_project/page/Q01/004/1993/r6_05-06.pdf)

### ▼Google検索



## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

目標値は10項目（重複除く）中、4項目で達成、6項目が未達。

	現況値							目標値
	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
<b>基本方針1 日常生活で利用できる公共交通を目指す</b>								
目標① 路線バスの運行維持・改善								
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人	0人	158万人
目標② コミュニティバスの運行継続・改善の指標と目標値								
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人	0人	89,000人
沼木バスの利用者数（スクール用を除く）	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人	0人	3,700人
年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	34%	29%	25%	28%	20.1%	0%	21%
目標③ 公共交通の利便性向上								
外宮内宮線・CAN ばす・二見アリーナ線を除く路線バスの利用者数	1,584,300人	1,491,500人	989,300人	1,043,900人	1,129,400人	1,128,900人		158万人
おかげバス・おかげバスデマンドの利用者数	81,654人	120,886人	101,367人	103,744人	115,754人	123,024人		89,000人
沼木バスの利用者数（スクール用を除く）	3,722人	3,113人	2,074人	1,581人	1,865人	2,345人		3,700人
市民アンケートの交通環境満足度（満足・どちらかといえば満足）	49%	47%	51%	50%	42%	31%		59%
<b>基本方針2 公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す</b>								
目標① 公共交通を利用した観光振興の推進								
内宮参拝者の公共交通利用率	31%	34%	9%	17%	25%	26%		35%
外宮内宮線・CAN ばす・二見サンアリーナ線路線バスの利用者数	2,676,600人	2,769,900人	1,130,500人	1,229,400人	1,576,900人	1,653,600人	0人	300万人
<b>基本方針3 地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える</b>								
目標① 利用するきっかけの創出								
公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	838人	187人	351人	1,302人	980人		940人
目標② わかりやすい情報提供の展開								
おかげバス・おかげバスデマンドのページ(伊勢市ホームページ)アクセス数	3,876件	51,930件	24,906件	35,181件	72,368件	79,481件	0件	42,000件
目標③ 公共交通を地域で支え、育てる								
伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	4回/年	4回/年	3回/年	4回/年	4回/年	0回/年	4回/年

※薄字は重複項目

前回改訂

新型コロナウイルス

□:目標値を下回る

路線再編

⇒コロナ後の生活様式の変化を踏まえた目標値の再設定が必要

⇒市民、（インバウンド含む）観光客双方の公共交通利用率を上げるための施策が必要

## 3. 【Check】 計画の目標の達成状況とその理由についての考察

## 生活交通確保維持改善計画

おかげバス	利用者数（評価期間R5.10～R6.9）			1人1回あたり輸送コスト		
	目標	実績	達成率	目標	実績	差
鹿海・朝熊線	10,200人	8,223人	未達成 81%	1,070円	1,380円	310円
東大淀・明野・小俣線	20,300人	★23,397人	達成 115%	1,540円	1,408円	-132円
二見線	13,300人	12,134人	未達成 91%	1,410円	1,602円	192円
辻久留・藤里線	12,700人	★14,750人	達成 116%	1,530円	1,380円	-150円
環状線	57,920人	★58,345人	達成 101%	750円	768円	-18円
計	114,420人	★116,849人	達成 102%	—	—	—

【目標値】 R4の元年度比実績%+7～8% 環状線・・・1周あたりの利用者10人（R5実績9.4人）

★おかげバスは一部路線で目標未達成ながら、**鹿海・朝熊線を除く路線で前年度の利用者を上回った。**

★環状線は開業した**ひかり病院にバス停を新設⇒利用者増**（R5比 2,204人↑）

⇒鹿海・朝熊線は毎年利用者が減少しているため、利用者ニーズに沿った路線・ダイヤの見直しが必要

⇒非利用者に対する効果的な利用促進施策が必要

沼木地区自主運行バス	利用者数（評価期間R5.10～R6.9）		
	目標	実績	達成率
市内連絡用（1）（床ノ木→神園）	311人	245人	未達成 79%
市内連絡用（2）（床ノ木～横輪口）	933人	71人	未達成 8%
市内連絡用（3）（津村口→床ノ木）	311人	126人	未達成 41%
南伊勢高校度会校舎前連絡	311人	228人	未達成 73%
市内連絡・買物用（1） （床ノ木～度会町）	1,555人	★1,891人	達成 122%
計	3,421人	2,561人	未達成 75%

【目標値】

沼木バス・・・補助基準の下限である、**片道あたり1名以上乗車を目標**

→市内連絡用(2)(3)は、補助基準の目標に対し、実績が大きく下回った。

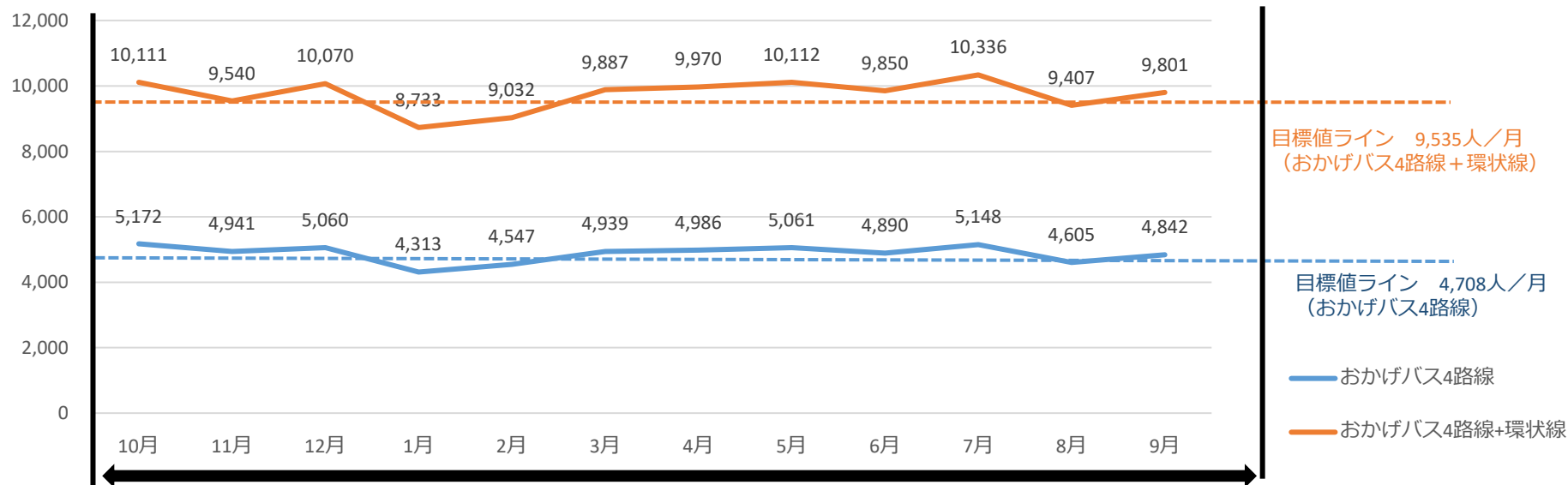
これは、「市内連絡・買物用（1）」の始発場所まで回送していたものを路線化したことによるもの。今後は、利用状況を見ながら路線のあり方を地域と協議する。

⇒路線によりバラつきが大きい。利用状況からデマンドへの切替えも検討したい

※自己評価を行った会議：第4回伊勢地域公共交通会議（令和6年12月25日）

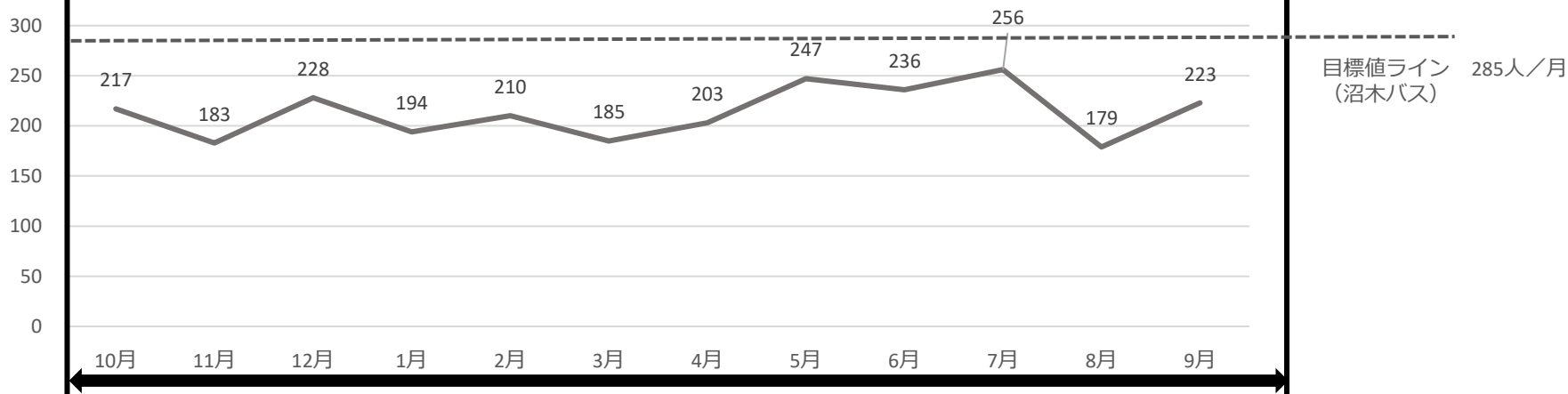
【参考】 利用者数の推移

R5-6 おかげバス利用者数推移



令和6年度生活交通確保維持改善計画期間

R5-6 沼木バス利用者数推移



令和6年度生活交通確保維持改善計画期間

## 【参考】 (改訂) 伊勢市地域公共交通網形成計画の評価指標と現況値

NO	指標	計画策定時 (H30年度数値)	実績値	目標値 (R7年度)
1	路線バスの利用者数 (外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線を除く)	1,584,300人	未達成 1,128,900人 (令和5年度)	1,580,000人
2	おかげバスの利用者数	81,654人	達成 123,036人 (R5.10~R6.9)	122,200人 (R6.10~R7.9)
3	おかげバスデマンドの利用者数	3,573人	未達成 2,981人 (R5.10~R6.9)	3,041人 (R6.10~R7.9)
4	沼木バスの利用者数 (スクール用を除く) ※令和3年度より沼木バスデマンドも含む	3,722人	未達成 3,156人 (R5.10~R6.9)	3,410人 (R6.10~R7.9)
5	年間利用者数72名未満のコミュニティバス停留所の割合	31%	達成 20% (令和5年度)	21%
6	市民アンケートの交通環境満足度 (満足・どちらかといえば満足)	49%	未達成 31% (令和5年度)	59%
7	内宮の参拝者の公共交通利用率	31%	未達成 26% (令和5年度)	35%
8	路線バスの利用者数 (外宮内宮線・CANばす・二見サンアリーナ線)	2,676,600人	未達成 1,653,600人 (令和5年度)	3,000,000人
9	公共交通の啓発・利用促進事業に参加した人数	857人	達成 980人 (令和5年度)	940人
10	おかげバス・おかげバスデマンドのページ (伊勢市ホームページ) アクセス数	38,376件	達成 79,481件 (令和5年度)	42,000件
11	伊勢地域公共交通会議の開催数	5回/年	達成 4回/年 (令和5年度)	4回/年



## 4.【Act】 計画目標の達成に向けた今後の取組方針

### ●課題と対応

#### ○コミュニティバス

- ・ おかげバス：二見線、鹿海・朝熊線の利用者が目標未達成  
⇒鹿海・朝熊線のような減少傾向の路線は特に、地域住民との意見交換会などを通じて利用の調査を行い、それらを勘案したバス停位置や路線の再編、ダイヤ改正などの検討が必要。
- ・ 沼木バス：去年までは通学定期利用便で補助基準を満たしていた系統が基準を満たせず。  
⇒通学利用は定期利用の学生が卒業すると厳しい。**地域間幹線系統の路線バス（五ヶ所線、南島線）との接続は可能な限り実施し**、それも含めて沼木バスをアピール。  
⇒**利用者の少ない定時路線は、デマンド交通への切り替え**による効率的な運行を行うことも検討する。

#### ○公共交通機関の周知・利用啓発

- ・ 啓発手段として、**時刻表の作成配布、広報誌での情報発信、バスの乗り方教室の開催、バスポスターコンクール**などを実施。
- ・ **「バスの乗り方」をわかりやすく解説した動画コンテンツ**（多言語）を作成し、非利用者層の市民と観光客（インバウンド含む）双方の利用率向上を目指す。
- ・ 観光目的の公共交通機関による来訪も回復基調  
⇒**神宮125社を公共交通でめぐるモデルコース**を紹介し、**市外への周知・利用啓発**にも取り組みたい。  
⇒観光客（インバウンドを含む）に対するアプローチを次期計画に位置付ける。

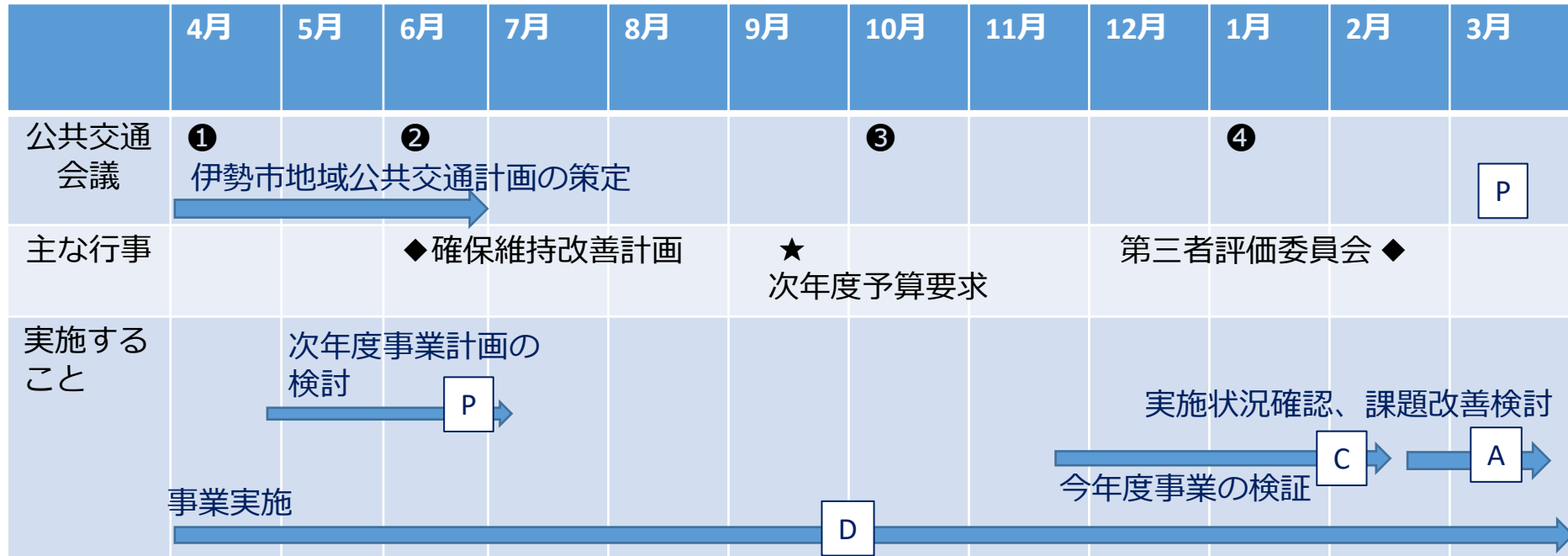
#### ○バスの利用環境の改善

- ⇒環状線での乗継割引券、バス情報フォーマットG T F S - J Pでのデータ提供、キャッシュレス決済サービスの継続実施
- ⇒導入した**Googleマップのリアルタイム表示の周知**や、**待合環境改善のためのベンチ設置、無料体験利用の事業**を実施し、新規利用者の掘り起こしと利用の定着を図る。

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年ぶりに開催された「伊勢まつり」で、バスポスターコンクールの表彰式や作品展示を行い、また小型電気バスの展示、利用相談コーナーの設置等、PRに努めたことを評価します。</li> </ul>	<p>今年度も引き続き「伊勢まつり」での啓発を行ったほか、自治体広報誌の表紙へのバスポスター起用など、子どもから大人まで幅広い年代に対しバスのPRに努めた。</p>	<p>将来のバス利用者となる若年層や、バス利用が多い高齢世代に対し、<b>動画コンテンツを活用したPRや体験型の乗り方教室</b>などを企画し、<b>啓発内容のブラッシュアップ</b>をしていきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沼木地区自主運行バスについて、引き続き、関係者と連携・協働し、地域の声の把握、現状分析、補助等支援のあり方やダイヤ・ルート及び利用促進の検討などの取組が進められることを期待します。</li> </ul>	<p>沼木バス委員会の会議に参加し、今後の沼木地区自主運行バスの在り方について協議した。現行の仕組みを継続する場合、<b>ドライバーの高齢化や車両の老朽化</b>（買い替え）が課題であることを共有した。</p>	<p>車両の更新を控えていることから、国や県の<b>補助金を活用</b>しながら、利用者の少ない定時路線を<b>デマンド交通へ切り替える</b>など、<b>効率的な運行を地域と検討</b>していきたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光地という特性も踏まえ、引き続き、市外からの来訪者に対する公共交通に係る情報発信や公共交通に乗ってみたいとなるような利用促進を期待します。</li> </ul>	<p>現在、摂社や末社を含めた<b>神宮125社を公共交通機関で訪れてもらえるようなモデルコース付きのホームページコンテンツ</b>を作成中。市外からの外宮内宮線以外のバス等の利用促進につなげたい。</p>	<p>左記のマップ作成後、<b>観光案内所などへの配架やQRコードの配布</b>を行い認知度の向上を図る。エリアごとに立ち寄りスポットを紹介し、<b>観光利用につながる取り組み</b>を実施したい。（令和7年3月実施）</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかげバス環状線の本格運行を開始し、その他のおかげバスや交通機関との乗り継ぎ割引を継続して実施し利用者が増加傾向になっています。地域活性化のための重要なこれらの路線に対する取組について大変評価します。</li> </ul>	<p>引き続き<b>乗継割引制度を実施</b>しているほか、<b>沿線の病院の移転に伴ったダイヤ変更</b>を行うなど利便性の維持に努めた。</p>	<p>環状線が地域に浸透したことで利用の伸びの頭打ちも予想されるので、<b>定期的な利用啓発（PRやチラシの作成、バスの乗り方教室等）</b>を行っていききたい。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去に市内を走行していたボンネットバスの里帰りイベントを実施することにより、メディア等で多数取り上げられ、県内外から訪れる人達にバスへの関心を高めたことを評価します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から再開した<b>伊勢まつり</b>でのブース出展において、<b>三重県のリニアのPRと併せて出展</b>を行うなど、いわゆる「コラボ」等の実施による、より幅広い層にブースに立ち寄ってもらい、関心や興味を持ってもらえるような取り組みは継続して行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も伊勢まつり等で併せ出展を行うなど、<b>幅広い層に（バス等がメインでなくとも）みてもらえるような啓発活動やイベント</b>を実施していききたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光目的の公共交通機関による来訪が少ないことから関係する自治体、部署、事業者と連携し市外での周知、利用啓発に期待します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、摂社や末社を含めた<b>神宮125社を公共交通機関で訪れ</b>てもらえるような<b>モデルコース</b>付きのマップ作成を進めている。市外からの外宮内宮線以外のバス等の利用促進につなげたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記のマップ作成後、周知による認知度の向上を図る。この他にも、<b>公共交通機関でなければできないような（飲酒など）、観光利用につながる</b>取り組みを実施したい。</li> </ul>

年間単位のスケジュール



【公共交通会議の実施状況（直近1年程度）】

- ・令和5年度第3回 1月10日 主な議題：事業評価、R6.4のダイヤ変更、夜間早朝交通対策部会の報告 など
- ・令和5年度第4回 (書面) 主な議題：R5年度補正予算案、おかげバスデマンドの運行事業者 など
- ・令和6年度第1回 4月19日 主な議題：事業計画、要綱改正、夜間早朝交通対策部会の報告 など
- ・令和6年度第2回 6月18日 主な議題：事業報告、フィーダー計画認定申請、計画策定 など
- ・令和6年度第3回 11月26日 主な議題：計画策定、日本版ライドシェア実証事業、伊勢玉城線運賃改定、夜間早朝対策部会の報告 など
- ・令和6年度第4回 12月25日 主な議題：事業評価、R7.4のダイヤ変更、計画策定 など
- ・令和6年度第5回 3月11日(予定) 主な議題：現行計画の延長 等

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年12月25日

協議会名: 伊勢地域公共交通会議

評価対象事業名: 令和6年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
	公共交通サービスの地域格差の是正や、交通弱者への病院や商業施設等への日常的な交通手段の提供、市内を放射状に運行する路線バスへの補完など、公共交通サービスの充実を図るため、公共交通の不便な地域のほか市内の主要な施設を結ぶ路線を運行	<p><b>コミュニティバスの運行維持</b> ⇒コミュニティバス運行により、自らの移動手段を持たない交通弱者に対し買い物・通院等の移動手段について、維持・確保を実施。</p> <p><b>おかげバス環状線の運行と市内を運行する路線バス等の利用促進</b> ⇒令和2年4月からの本格運行を開始後、感染症の影響を受けつつも継続的な運行を実施し、利用者数は増加傾向。環状線とおかげバスの他の路線、路線バス、鉄道および地域運賃乗合タクシーとの乗り継ぎの際の、乗継割引を継続して実施。</p>		<p>【全体評価】 ・おかげバスの目標は、コロナ後の生活様式の変化を踏まえ、令和5年のフィーダー認定申請の際に目標値を再設定している。 ・再設定したおかげバスの目標(令和6年度)は、令和4年度の元年度比実績%に7~8%上乗せした水準を目指すものである。 ・環状線の目標(令和6年度)は、1周あたりの利用者を10人とする。 ・沼木バスの目標は、利用者数が補助基準の下限基準(片道あたり1名以上乗車) ・目標値を超えたものについては「A評価」、目標値と実績値での比較で達成率90%以上のものを「B評価」、それ未満を「C評価」とする。</p>	<p>・おかげバスについては、鹿海・朝熊線を除きすべての路線で前年より利用者が増加した。R5.10~ひかり病院開院に伴い、当該病院への乗り入れを開始したところ、関係する東大淀・明野・小俣線と環状線で利用者が増加。今後は減少傾向にある鹿海・朝熊線において、地域住民との意見交換会などを通じて利用の調査を行い、それらを勘案したバス停位置や路線の再編、ダイヤ改正などの検討が必要。</p>
三重交通株式会社	鹿海・朝熊線(R5.10~R6.9) [いせトピア~朝熊町~いせトピア]	<p><b>周知・利用促進活動の継続的な実施</b> ⇒伊勢まつりにおいて、より幅広い層にブースに立ち寄ってもらえるよう、交通安全推進協議会と合同で「のりものふれあい広場」を出展。バトカーや白バイと共にポケモン電気バスの展示を行い、バスのクイズラリーや制服試着体験・利用相談などを実施。</p>	計画どおりバスを運行するとともに、周知利用促進活動も実施するなど、事業は適切に実施された	<p>C</p> <p>【利用者数】 目標:10,200人 実績:8,223人</p> <p>【1人あたり税金投入額】 目標:1,070円 実績:1,380円</p>	<p>・公共交通機関の周知・啓発手段として、時刻表の作成配布、広報誌での情報発信、バスの乗り方&amp;交通安全教室の開催、バスポスターコンクールなどを実施している。今後は「バスの乗り方」をわかりやすく解説した動画コンテンツ(多言語)を作成し、非利用者層の市民と観光客(インバウンド含む)双方の利用率向上を目指していく。また観光目的の公共交通機関による来訪も回復基調であることから、次期計画に観光客(インバウンド含む)に対するアプローチを位置付け、取組中の「公共交通でめぐる神宮125社めぐり」についてもエリアを順次追加し、市外への周知・利用啓発に取り組んでいきたい。</p> <p>・バスの利用環境の改善策として、環状線における乗継割引券のサービスや、標準的なバス情報フォーマットGTF S-JPでのデータ提供、キャッシュレス決済サービスを継続して行う。また、導入したGoogleマップのリアルタイム表示の周知や、待合環境改善のためのベンチ設置、無料体験利用の事業を実施し、新規利用者の掘り起こしと利用の定着を図りたい。</p>
東大淀・明野・小俣線(R5.10~R6.9) [伊勢赤十字病院、小俣図書館~近鉄明野駅前~山大淀]	<p><b>沼木自主運行バスについて</b> ⇒沼木バス委員会の会議に参加し、今後の沼木地区自主運行バスの在り方について協議した。現行の仕組みを継続する場合、ドライバーの高齢化や車両の老朽化(買い替え)が課題であることを共有した。</p>	<p>A</p> <p>【利用者数】 目標:20,300人 実績:23,397人</p> <p>【1人あたり税金投入額】 目標:1,540円 実績:1,408円</p>			
二見線(R5.10~R6.9) [松下広場~浜郷小学校前、山商口~五十鈴川駅]	<p><b>観光目的による公共交通機関の利用促進</b> ⇒摂社や末社を含めた神宮125社を公共交通機関で訪れてもらえるようなモデルコースを作成中で、R7.3までにホームページコンテンツとして公開予定。市内の観光路線(外宮内宮線など)以外の利用につなげていきたい。</p>	<p>B</p> <p>【利用者数】 目標:13,300人 実績:12,134人</p> <p>【1人あたり税金投入額】 目標:1,410円 実績:1,602円</p>			
辻久留・藤里線(R5.10~R6.9) [大倉うぐいす台~勢田町~伊勢市役所正面]		<p>A</p> <p>【利用者数】 目標:12,700人 実績:14,750人</p> <p>【1人あたり税金投入額】 目標:1,530円 実績:1,380円</p>			
環状線(R5.10~R6.9) [伊勢市駅前~伊勢病院前~伊勢市駅前]		<p>A</p> <p>【利用者数】 目標:57,920人 実績:58,345人</p> <p>【1人あたり税金投入額】 目標:750円 実績:768円</p>			

伊勢市	沼木地区自主運行バス 市内連絡用 (1) 〔床ノ木～横輪口～神菌〕 (R5.10～R6.9)	沼木自主運行バスについて ⇒沼木バス委員会の会議に参加し、今後の沼木地区自主運行バスの在り方について協議した。現行の仕組みを継続する場合、ドライバーの高齢化や車両の老朽化(買い替え)が課題であることを共有した。  観光目的による公共交通機関の利用促進 ⇒摂社や末社を含めた神宮125社を公共交通機関で訪れてもらえるようなモデルコースを作成中で、R7.3までにホームページコンテンツとして公開予定。市内の観光路線(外宮内宮線など)以外の利用につなげていきたい。	A	計画どおりバスを運行するとともに、周知利用促進活動も実施するなど、事業は適切に実施された	C	【利用者数】 目標:311人 実績: 245人	・沼木バスの利用は、去年までは通学定期利用便で補助基準を満たしていた系統が基準を満たせず。地域間幹線系統の路線バス(五ヶ所線、南島線)との接続は可能な限り実施しているため、国や県の補助金を活用しながら、利用の少ない路線についてはデマンド交通への切り替えによる効率的な運行を検討する。
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用 (2) 〔床ノ木～横輪口〕 (R5.10～R6.9)				C	【利用者数】 目標:933人 実績: 71人	
	沼木地区自主運行バス 市内連絡用 (3) 〔床ノ木～横輪口～津村口〕 (R5.10～R6.9)				C	【利用者数】 目標:311人 実績: 126人	
	沼木地区自主運行バス 南伊勢高校度 会校舎前連絡 〔川口～南伊勢高校度会校舎前〕 (R5.10～R6.9)				C	【利用者数】 目標:311人 実績: 228人	
	沼木地区自主運行バス 市内連絡・買 物用(1) 〔床ノ木～沼木神社北～津村～度会町 役場前〕 (R5.10～R6.9)				A	【利用者数】 目標:1,555人 実績:1,891人	

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月25日

協議会名:	伊勢地域公共交通会議
評価対象事業名:	令和6年度地域公共交通確保維持改善計画(地域公共交通確保維持事業のうち地域内フィーダー系統関係)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>平成28年3月に策定、令和2年3月に改訂した伊勢市地域公共交通網形成計画において、伊勢市が目指す将来像を「気軽におでかけができ、交流と活力に満ちた地域社会を支える地域公共交通」とし、その実現に向け「私たちが創り、育む、持続性のある地域公共交通網の構築」という基本理念を定めている。</p> <p>目指すべき将来像や基本理念を実現するために、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」、「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」、「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」の3つの基本方針を定め、事業の推進を図っている。</p> <p>その中で、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」ために公共交通不便地域の解消、自らの移動手段を持たない交通弱者が、病院、商業施設等への移動手段の確保、バス利用での利便性の向上、バスやバス停の周辺環境の改善、これらを実施するとともに、ルート・ダイヤの見直しなどの効率化を図り、バス路線の維持・確保をしていく。</p>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定に係る事業)

令和6年12月25日

協議会名:伊勢地域公共交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通網形成計画等の計画策定に向けた方針
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C評価 【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【補助申請を行う補助対象事業名、事業内容、実施時期等を記載】
【事業内容】 ・現状の把握 ・上位・関連計画の整理 ・取り巻く課題の整理 ・地域公共交通計画案の作成 ・地域公共交通会議の開催運営  【結果概要】 令和7年3月末までに計画案を策定予定	A 適切に実施されている。	【名称】 伊勢市地域公共交通計画策定業務  【事業内容】 ・現状の把握 ・上位・関連計画の整理 ・取り巻く課題の整理 ・地域公共交通計画案の作成 ・地域公共交通会議の開催運営  【実施時期】 令和6年8月～令和7年3月



## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和6年12月25日

協議会名:	伊勢地域公共交通会議
評価対象事業名:	令和6年度 地域公共交通調査事業(地域公共交通計画策定事業)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【地域の交通の目指す姿】「気軽におでかけができ、交流と活力に満ちた地域社会が支える地域公共交通」</p> <p>平成28年3月に策定、令和2年3月に改訂した伊勢市地域公共交通網形成計画において、伊勢市が目指す将来像を「気軽におでかけができ、交流と活力に満ちた地域社会を支える地域公共交通」とし、その実現に向け「私たちで創り、育む、持続性のある地域公共交通網の構築」という基本理念を定めている。目指すべき将来像や基本理念を実現するために、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」、「公共交通を利用した観光交流人口の増加を目指す」、「地域の関係者が協働・連携しながら自ら公共交通を支える」の3つの基本方針を定め、事業の推進を図っている。</p> <p>その中で、「日常生活で利用できる公共交通を目指す」ために公共交通不便地域の解消、自らの移動手段を持たない交通弱者が、病院、商業施設等への移動手段の確保、バス利用での利便性の向上、バスやバス停の周辺環境の改善、これらを実施するとともに、ルート・ダイヤの見直しなどの効率化を図り、バス路線の維持・確保をしていく。</p> <p>【事業実施の目的・必要性】</p> <p>現行の計画が令和7年3月までとなっているため。</p>